

姫宗和をたずねて茶会 会記

令和三年弥生二十八日 桜始開 利休忌

吉森宗浩

宗光

寄付床

仁和寺宮性承法親王筆 絹本色紙 宮内卿詠和歌

聞くやいかにはの空なる風だにも松に音するならひありとは

床

後西天皇宸翰 唐花地紋金砂子散紙本短冊 九条良経詠和歌

をしなべて木の芽も春の浅緑松にぞ千代の色はこもれる

花

花入

金森宗和作 栗 聖護院宮道晃法親王所持

香合

栗田口 中啓

安田浩人造

風炉先

金銀霞引 遠山

炉縁

朱 松蒔絵

一后一兆造

釜

姫瓜

宮崎寒雉造

鉦

真鍮 長木瓜

大西浄雪造

水指

木地曲

茶入

長 銘三穗 金森宗和箱 近衛家伝来

野々村仁清造

茶杓

金森宗和作 風早家伝来

茶碗

天目 青貝唐物台添

野々村仁清造

蓋置

竹

建水

餌畚

茶

星霜軒好

告天子

星霜軒詰

胡蝶の白

菓子

百椿の内五椿 玉之浦 白玉 卜伴 西王母 絞乙女

つくし

井上宗豪製

菓子器

御菓子入

野々村仁清造

汲出

桜花茶

懷石

銀の朥 朴葉味噌 山菜きのこ散らし

土産

星霜軒宝物拾遺